

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
3月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～急速に悪化した日本経済の構造に光をあて、対処の糸口を探ります。

2009/2/19 「緊急避難型ワークシェアリングの経済効果～消費の減少の抑制が期待される～」

2009/2/17 「電気機械産業の減産の経済的な影響～懸念される影響の地域差と雇用調整～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2009/3/16 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～金融危機のもと大きく動揺する世界経済と、日本経済の進むべき方向を考えます。

2009/2/26 「円相場が急落する背景～日米金利の再拡大をめぐる微妙な変化～」

2009/2/16 「保護主義を最も警戒すべき国・日本～ローマG7で議論された論点～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～米国経済の今と成長力に期待がかかるアジア新興大国での景気の手がかりを探ります。

2009/3/12 「海外 経済指標・イベント予定 “Weekly Global Economy”」（毎週木曜日配信）

2009/2/25 「2009年、2010年の中国経済見通し～もう一段の悪化も、戻りは中国から～」

2009/2/19 「アジア（インド、NIEs、ASEAN5）短・中期経済見通し（2009年2月版）」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

多くの会社の年度初めにあたる今月、経済研レポートに掲載した「日米経済見通し」では、GDP成長率予想を大幅に下方修正している。未曾有の世界景気失速により、経済の現状を表す指標は、過去例を見ない大きなマイナスの値が見込まれている。これら数字の裏には、吹きすさぶ逆風に立ちすくむ家計や企業の姿がある。危機回避のために一時ストップした経済活動が、再び少しずつ動き出すことで悪化のペースダウンを期待したいが、今のところ先行きの不安を完全に打ち消すことはできていない。

今回に限らず、難局に直面した場合にはどんな「戦術」や「戦略」を選ぶかがその後の結果を左右する。例えば、つい最近まで続いた長い運用難の時代には、高金利通貨に投資をすることや、証券化商品やデリバティブを利用して資金を運用することなどは「戦術」にあたるものだった。世界的に金余りの環境が続くうちは、これらの手段は一定の成果を収めた。これに対し、一国の経済が危機に直面したようなときには、「戦術」だけではなく、どうしても将来の景気回復の方向性を示す経済「戦略」が必要だ。今、何にも増して不安を感じるのは、この国のビジョンを描くべき場面で戦術は見えても、成長の道筋を示す戦略が見えにくいことだ。100年に一度といわれる危機の下、今年も桜の季節がやってきた。 (H. U)